

しちじぞう お七地蔵

区指定文化財（史跡）

昭和49年（1974）2月2日指定

所在地：密蔵院 みつごいん 大森北3-5-4

交通アクセス：京浜東北線大森駅から徒歩9分

公開の有無：常時公開（密蔵院境内）



密蔵院境内のブロック造りの堂には石造の地蔵菩薩立像があり、俗に「お七地蔵」と呼ばれています。「八百屋お七」に由来する文化財です。

お七は江戸本郷の八百屋の娘で、恋人に会いたい一心で放火事件を起こし、火刑に処されたとされる少女です。井原西鶴の『好色五人女』いはらさいかく こうしよくごにんおんなに取り上げられたことで広く知られるようになり、文学や歌舞伎、文楽などの芸能において多様な趣向の凝らされた諸作品の主人公にもなっています。

「お七地蔵」の台座銘文には、お七の住んでいた小石川の念仏講の人々が貞享2年（1685）に開眼供養したと記されています。『新編武蔵風土記稿』しんべんむさしふどきこうにも、17歳で火あぶりの刑を受けたお七を哀れみ、その冥福のために建てられたという記載があります。また、この地蔵については次のような言い伝えもあります。当初、お七地蔵は鈴ヶ森の刑場に建てられました。この開眼供養の直後、密蔵院に旅姿の若者が運び込まれました。翌朝になると若者は無事回復し、寺の境内を歩いていたのですが、なんと前日刑場に建てたはずの地蔵が若者に逢うためがごとく立っていたというのです。これ以降、お七地蔵は願いが一晩で叶う「一夜地蔵」と呼ばれるようになり、若年の病者や縁薄き者たちの願いをかなえたといわれます。